

2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業

コロナ禍に対応した
病気の子どもへの
学習・余暇支援
実施可能な支援者育成事業
報告書

認定NPO法人ラ・ファミリエ



La♥famille

～認定NPO法人ラ・ファミリエ～

地域子どものくらし保健室

この冊子は2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業にて作製いたしました

はじめに

立秋の候、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。平素よりラ・ファミリエへのご協力とご支援をいただき、ありがとうございます。

この度、2021 年度ドコモ市民団体活動助成事業を受託し、「コロナ禍に対応した病気の子どもへの学習・余暇支援実施可能な育成事業」に取り組んでまいりました。

当法人の活動拠点である愛媛県では、令和元年度の病気による長期欠席小中学生は 740 名であり、他の都道府県と比して高い状況が続いています。しかし、県内には院内学級のある病院が 4 病院であり、中予地方に 3 病院、南予地方に 1 病院のみ、東予地方にはありません。内訳としては小学生対象が 4 病院、中学生対象は 3 病院、高校生対象はありません。また、復学の為に自宅で療養中の子どもや復学したものの学習についていけず、不登校になり、保護者と共に当団体に相談に来られる子どもも少なくありません。

本来であれば、公教育による早急な学習機会の保障が必要ですが、公教育の整備を待ち続けるだけでなく、個別の教育的ニーズに応じた支援を県内で行えるよう、学習指導や病気療養児の心理・生理に関する専門性のあるスタッフや教育支援者を増やす必要があります。

新型コロナウイルス感染拡大により、面会制限や登校自粛等で家族や友人等と会う機会が減少し、孤独感を抱えているお子さんも少なくありません。よって、ICT を活用して学習・余暇支援ができる学習支援ボランティアの研修に力を入れることとなりました。

これらの活動は、多くのボランティアの方々をはじめ、多くの職種の方々に支えられて実現することができています。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

子どもたちの明日がより良いものになるように、スタッフ一同、真摯に取り組んで参る所存ですので、これからも、ご指導・ご鞭撻・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



令和 4 年 8 月 吉日
認定 NPO 法人ラ・ファミリエ
理事長 檜垣 高史

目次

はじめに	1
目次	2

第1章 ラ・ファミリエの学習支援体制について

ラ・ファミリエの学習支援について

第2章 令和2年度学習支援ボランティア研修会について

学習支援ボランティア研修会の概要	3
各回の研修内容と受講生のことば	
ループリック評価について	

第3章 学習支援ボランティアの実施

ボランティアによる学習支援について	101
-------------------------	-----

第4章 小児科外来での学習支援について

小児科外来での自習室開放と学習支援について	101
-----------------------------	-----

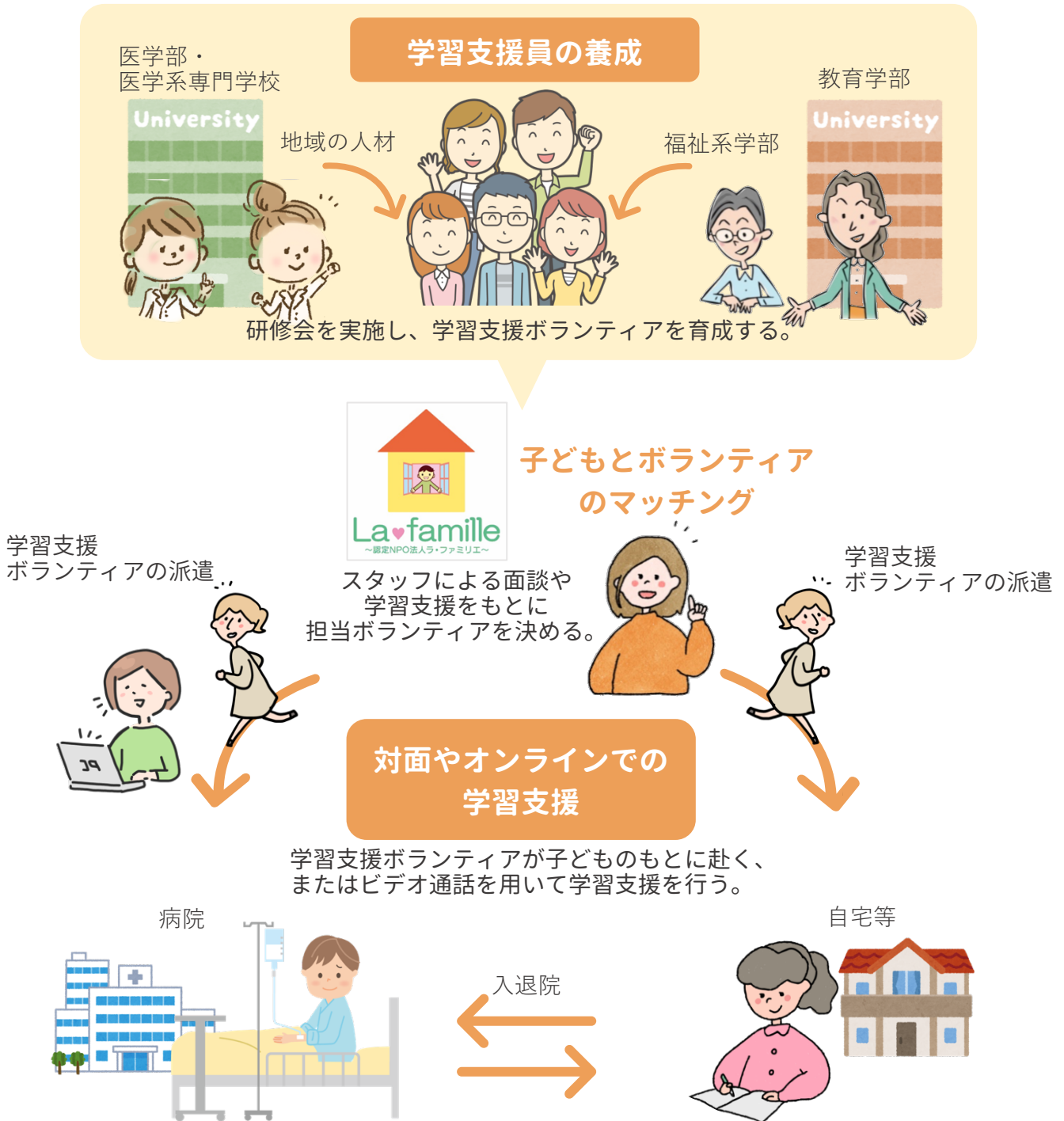
編集後記

おわりに	114
------------	-----

第1章 ラ・ファミリエの学習支援体制について

1-1 学習支援の実施体制図

- ラ・ファミリエでは愛媛県と松山市から委託を受けている「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の一環として、学習支援を実施しています。



第2章 2021年度学習支援ボランティア研修会について

2-1 学習支援ボランティア研修会の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Google クラウドルームを用いたオンラインでの開催としました。
- 全 5~6 回の研修で構成し、各回終了後、受講生にレポート課題を提出してもらうことで修了としました。第 3 回までの研修が修了し、スタッフとの個人面談ができた受講生は、学習支援ボランティアに参加しました。
- 研修会修了前後でループリック評価を実施し、はじめの自己評価や研修終了後の到達目標を考えました。
- 事業期間内である 2021 年 9 月~2022 年 8 月に、医学部や教育学部、福祉系専攻の大学生や医療系の専門学校生、社会人など合計 37 名が受講しました。

研修会のガイダンス動画が
こちらの URL から見られます。▶



この取組は『ドコモ市民団体活動助成事業』からの助成金により実施します。

入院中の子って勉強どうしてるの？

病気の子の気持ちや支援を学びたい

学習支援って何だろう？

子どもたちの力になりたい

学習支援ボランティア研修会

オンラインで開催いたします

ラ・ファミリエでは、病気による入院や自宅療養などにより、学習が遅れがちな子どもたちに対する学習支援や、その支援者を育成する研修会を実施しています。

参加無料

研修内容

- 全5回（10コマ程度）
- 「病気療養児の学習支援について」
- 「病気療養児の発達課題」
- 「医学的知識の基礎」
- 「院内学級でのかわり」など

受講方法

- 配信している研修動画を視聴して学習を進める。
- 各回ごとにレポート課題を提出。
- ※ 学習支援ボランティアへの参加を希望する受講生の方は、スタッフとの個人面談を実施します。

認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室
〒790-0813 愛媛県松山市重町4丁目7-2 カネ宮ビル1階
TEL / FAX: 089-916-6035 E-mail: lafamilie@cc-sodan.jp

Facebookにて最新情報を発信しています▶

▲ 学習支援ボランティア研修会のチラシ

学習支援ボラ... ストリーム 授業 メンバー 採点

R3年度(第2期)研修会について

- 説明動画)R3年度第2期学習支援ボランティア... 投稿日: 2021/10/08
- Google クラウドルームでの研修会受講方法につ... 投稿日: 2021/10/08
- 開催要項・チラシ 投稿日: 2021/10/08

ループリック評価

- 【課題】ループリック評価の回答 最終編集: 4月4日

第1回(10/25~11/20)

- R3年度第2期_第1回学習支援ボランティア研修... 最終編集: 昨日

第2回(11/21~12/20)

- (回答のお願い) 個人面談の日程調整 投稿日: 2021/12/17
- R3年度第2期_第2回学習支援ボランティア研修... 最終編集: 4月12日
- (資料) 小児慢性特定疾病の対象疾病について 投稿日: 2021/11/21

▲ Google クラウドルームの画面一部

2-2 各回の研修内容と受講生のことば

- 以下、研修会について内容と受講生のことばを紹介します。

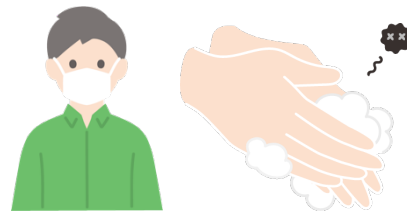
第 1 回研修会

(講義内容)

- 「病気療養児の学習支援」愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎木暢子先生
- 「病気の子どもの配慮について」「感染制御の基本」「小児がんについて」
小児科医 大藤佳子先生

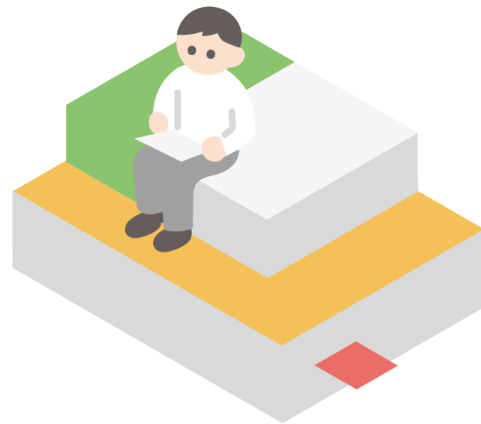
(講義方法)

- 動画配信によるオンライン講座



(受講生のことば) レポートより一部抜粋

- 「何らかの理由で学校を長期に休んでいる子どもたちはたくさんいて、病気による欠席は人国の小中学校で 4 万人以上いて増加傾向にあるというのは、全然知らなかった
ので、驚きました」
- 「子どもが教育を受けられるのが、病状の改善にも良い影響を与えるのなら、ますます
病弱教育は子どもにとってプラスになるものなんだな、と感じました」
- 「学習支援の貴重な時間をより良いものにするために、感染予防の徹底はもちろん、子
どもたちに達成感や希望を与えられるように工夫して支援していく必要があるとわか
りました」
- 「ボランティアの病気に関する知識不足や誤解のせいで、相手を傷つけてしまうこと
がないように、適切なところから情報を集めていくことも大切だと思いました」



第2回研修会

(講義内容)

- 「病児を取り巻く支援」認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 理事・自立支援員 西朋子
- 「コロナ禍の自立支援事業」認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 自立支援員 玉井千明
- 「学習支援の実際の流れ」認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 自立支援員 越智彩帆
- 「ICT 機器を用いた学習支援」認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 自立支援員 越智彩帆

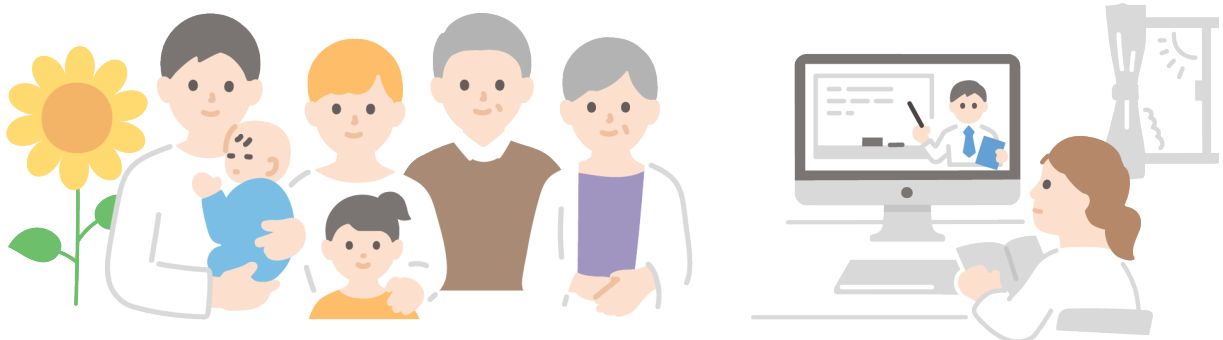
(講義方法)

- 動画配信によるオンライン講座



(受講生のことば) レポートより一部抜粋

- 「同じような病気のある子ども同士で会う機会があることで、“自分だけではないんだ”ということや自分を認めてもらえるという体験ができ、仲間がいると思うとさまざまなことに前向きに考えて行動することができるようになります」と
- 「学習支援について、勉強以外でのコミュニケーションもとても大事だと感じました」
- 「その日のお子さんの体調に合わせて、使う教材を変えたり、休憩の時間を長くしたりするなど、臨機応変に対応することが大切だと考えました」
- 「遠隔の学習支援だとコミュニケーションを取りづらいところもあると思うので、うまく遠隔を使って、対面と同じように行うことができるようにする必要があると感じました」



第3回研修会

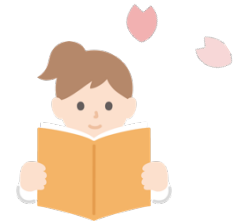
(講義内容)

- 「病気の子どもの発達課題を考える」
- 「子どもの余暇について」

愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎木暢子先生

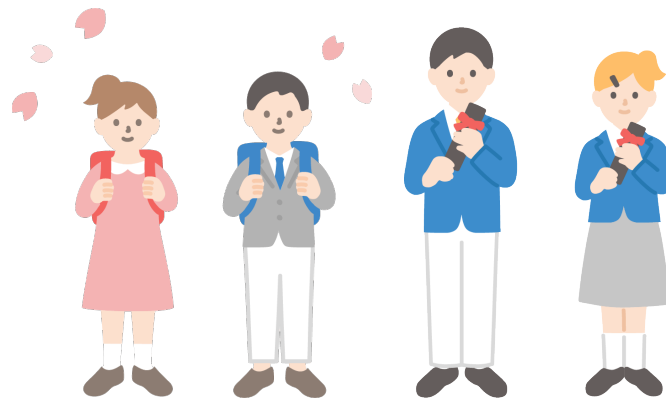
(講義方法)

- 動画配信によるオンライン講座



(受講生のことば) レポートより一部抜粋

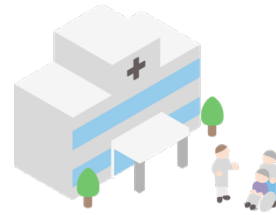
- 「感じる不安は同じ病気の人であってもひとそれぞれ違うからこそ、病気を勉強しただけで分かった気にならないように注意していく必要があると思いました。このような症状があるから、こうしよう、と考えること自体は大切な事前準備になるのかもしれないのですが、みんながみんな同じ症状ではないことを忘れずに、学習支援を行うからこそ病気ではなく、人を見ることが本当に大事だと思いました」
- 「“入院している子どもは大人の世界で育つ”ということにハッとさせられました。子どもは年齢が上がるごとにできることがどんどん増えていき、学校が変わることで人間関係の変化も大きいです。そんな中で周りにいる近い年代の子どもや、年齢相応の教育をしてくれる園・学校の先生によって、自分の振る舞いや立ち位置を考えて学んでいくと思います。しかし、あくまで治療が最優先でコロナで面会の機会が減っていることもあり、子ども同士が触れ合う機会が極端に少ないです。子どもらしく学んで遊んで愛情をたっぷり受けて育つ権利を守り、その環境を少しでも作っていくために、他愛のないおしゃべりや悩み相談、遊びや目標に向かって頑張るという体験を取り入れていきたいと思いました。」



第4回研修会

(講義内容)

- 公開講座「喪失からの回復～学ぶことは生きること～」
昭和大学大学院保健医療学研究科 副島賢和先生
- 講義 60分、質疑応答 30分
- 学習支援ボランティア研修会受講生対象の座談会 60分



(講義方法)

- Zoomを用いた同期型オンライン研修会



2021年度ドコモ市民活動団体助成事業

副島賢和先生講演会

喪失からの回復 ～学ぶことは生きること～

2022年4月16日(土)13:30～15:20 Web開催

院内学級のない病院にて長期療養や、退院後の復学のために自宅にて療養などにより、教育から長期離脱している子どもたち、また長期療養後、復学をしたものの学習に遅れがちな子どもたち、遠隔地域の子どもたちなど、病気により特別なニーズが生じている子どもたちの教育支援者、学習支援ボランティアの育成を目的とした研修会の公開講座です。



講師プロフィール
副島 賢和
そえじま まさかず
1966年 福岡県生まれ
1989年 都立文科大学卒業後東京都立小学校教員として採用され、25年間学級担任として勤務。
1999年 東京都の派遣研修で在職のまま東京学芸大学大学院にて心理学を学ぶ。
2006年 品川区立清水台小学校さいかち学級(昭和大学病院内)を担当。
2014年 現職。昭和大学附属病院内学級担当、学校心理士スーパーバイザー、ホスピタル・クラウン。

- はじめに
13:30～13:50
- 公開講座(質疑応答)
13:50～15:20

講師 准教授 副島 賢和先生 (昭和大学大学院保健医療学研究科)
受講対象 保健師、看護師等の小児慢性疾患に関わる医療関係者、子どもに関わるNPO法人、教育関係者、親の会、学生 等
定 員 100名 受講料無料
方 法 Web会議システム「Zoom」を用いたオンライン開催



お申し込みはこちらのフォームよりお願いします。

<https://forms.gle/jE8awhDaKrZGuFnf8>



● 副島先生との座談会 (学習支援ボランティア対象)

15:30～16:30

ラ・ファミリエの学習支援ボランティア研修会を受講している、または受講したことがある方は、公開講座後の座談会に参加できます。
ボランティアをしている中で「こんなことがあったよ」「こういう時はどうしたらいいのかな」など今までの体験や気になることなどを、副島先生と一緒にお話ししましょう。



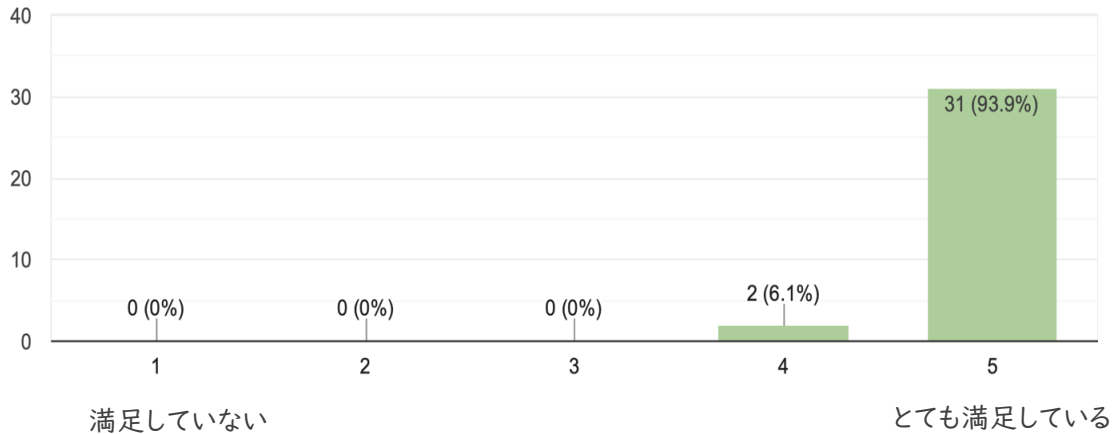
～認定NPO法人ラ・ファミリエ～
地域子どもくらし保健室

お問い合わせ先
TEL/FAX:089-916-6035
E-mail lafamille@cc-sodan.jp
<http://www.job-famille.org>
松山市番町4丁目7-2 カネ宮ビル1F

(講演会後のアンケート結果)

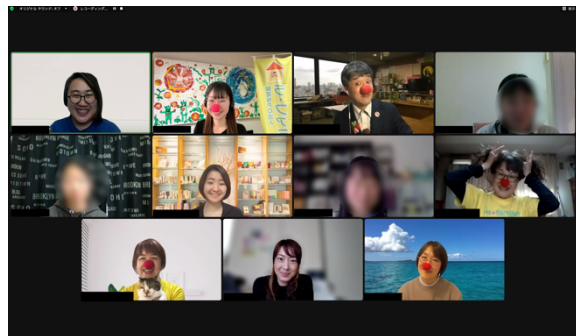
● 満足度について (5 件法)

33 件の回答



● 印象に残ったことについて (自由記述) 一部抜粋

- 🚩 「初めて病児のリアルを知りました」
- 🚩 「院内学級を担当されている先生の生の声をきけたことが、大変貴重でした。先生の出会っている子どもたちとお話し、副島先生の教員としての思いや、コロナ禍での院内における学習環境の変化について、知ることができました」
- 🚩 「コロナ禍で、タブレット学習が広まったことの利点と、院内における学習環境が個人のカーテンの中で行われることで友人とのたわいもない会話をする機会が失われるのではないかと提起されていたことです。私の子供のいる病院では同じ階にある院内学級に集うことができているが、今後はどうなるのかと、考えていたので、印象に残りました」
- 🚩 「ちょっと傷をつける、嘘をつく、壊す。怒る、悲しむ、怖いと思う。そういった、強かったりネガティブだったり…とされるひとつひとつの言葉が、そえじさんを通して、とても優しくあたたかいものとして聴こえてきたこと」
- 🚩 「子どものエネルギーをためる役割としての学びの担保、子どもたちのさまざまな切実な言葉が心に刺さりました」



▲ 質疑応答の様子

第5回研修会

(講義内容)

- 「成果報告会」
講師：愛媛大学大学院教育学研究科 教授 榎木暢子先生
ファシリテーター：認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 西朋子・越智彩帆
- 受講生による「学習支援ボランティア研修会を通して学んだこと」についての発表と質疑応答・意見交換

(講義方法)

- オンライン会議システムを用いた同期型オンライン研修会

(受講生の成果報告資料) 一部抜粋



②気を付けていたこと

- 尻のやる気と体調に合わせた学習内容の量
→勉強が嫌いにならないようにするため
- 会話のペースに合わせる
→初対面であり、zoomという会話のペースがつかみづらくストレスを与えないようにするため
- 頑張りを褒めること
→勉強が楽しいと思ってもらうため

④学習支援中に感じたこと、考えたこと

教材を共有しにくい

(画面上に映してもらってそれを見て採点、解説をするため見にくい)



現在は、問題と答えとその答えになった理由を読み上げてもらおうということに対応している

→考えを聞くことで本当に理解しているのか、どういった考えからその答えになったかを確認するため

③学習支援中に感じたこと、考えたこと

- オンラインならではの教えることへの難しさ
- 機械に慣れてないとスムーズにいかない。
- いろいろなことを話してくれるが、反応に困る。返答に困る。
- 体調不良時「休む」と連絡してくれるまでのラグ
心理的負担をかけさせてしまっている
- ベストを尽くしているか心配になる。後悔する

④今後の展望等

- 自分の心を守るために一つ壁を作っておく
- 日々勉強をする
- 自分ができるベストを毎回提供する
- 支援中は笑顔でいる

2-3 ルーブリック評価について

ルーブリック評価について

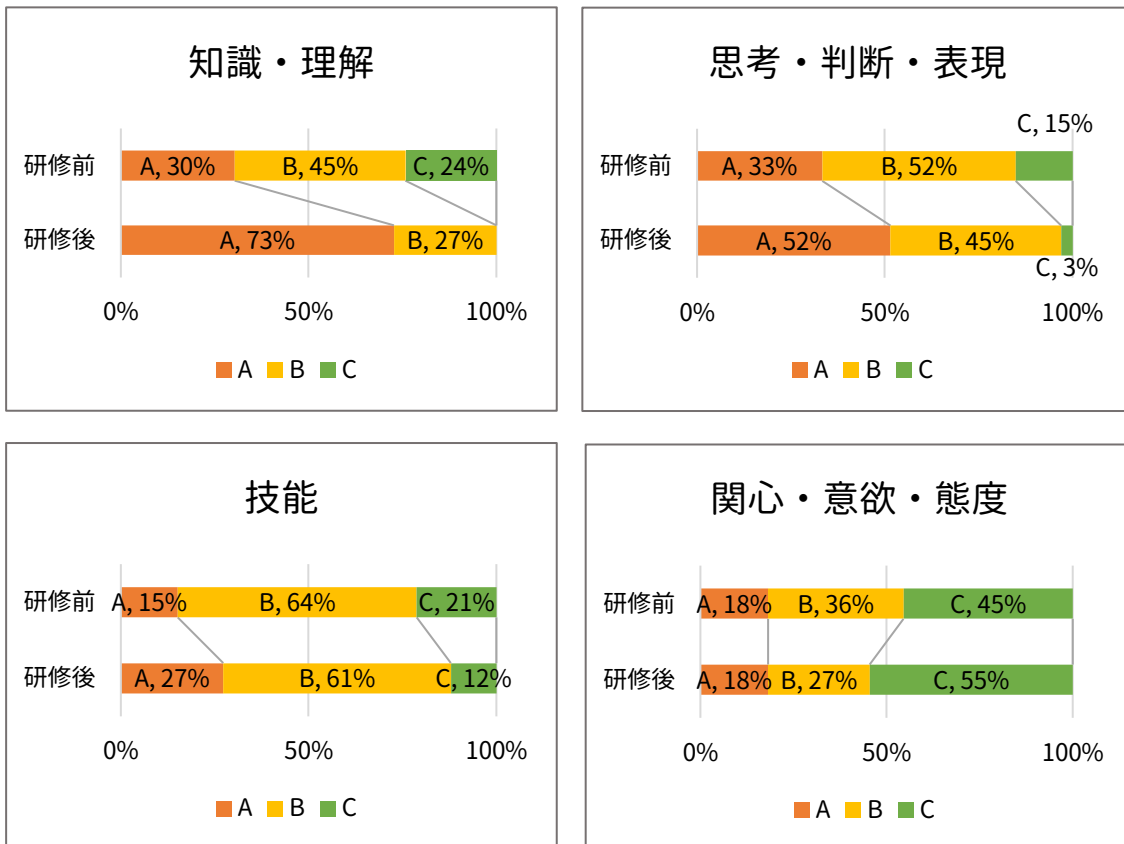
- ルーブリック評価とは、学習の達成度を評価するためのものです。本研修会では、山下ら（2016）¹が作成した「入院児への余暇・学習支援ルーブリック評価」を使用しました。

実施方法

- 研修受講前および受講後にルーブリック評価を実施しました。両方のルーブリック評価が揃っている受講生5名のものを集計しました。「知識・理解」「思考・判断・表現」「技能」は各3項目で、ABCの3段階評価としました。「関心・意欲・態度」は10項目中当てはまるものの項目の数を合計しA=9～10項目、B=6～8項目、C=0～5項目としました。

各観点における変化

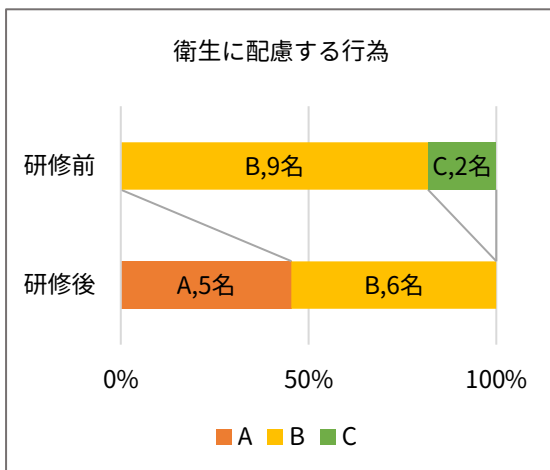
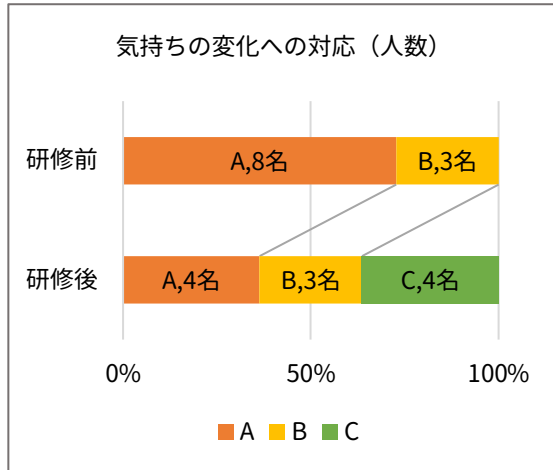
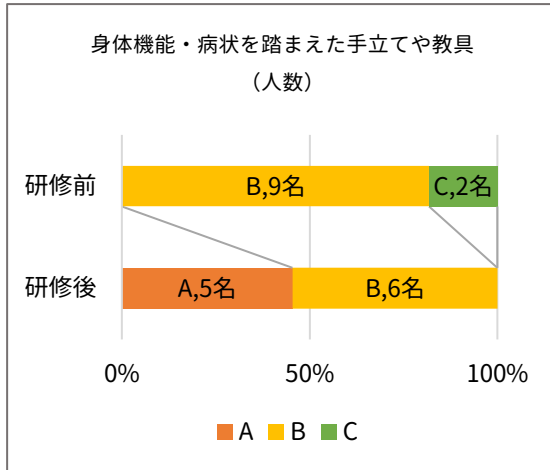
- R3年度研修会受講者の回答のうち、研修前後の回答が揃っている11名対象



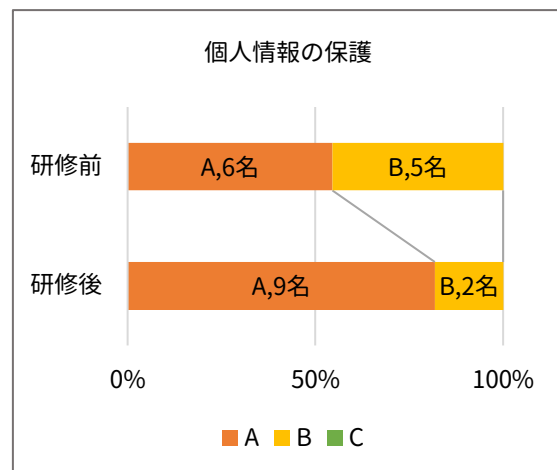
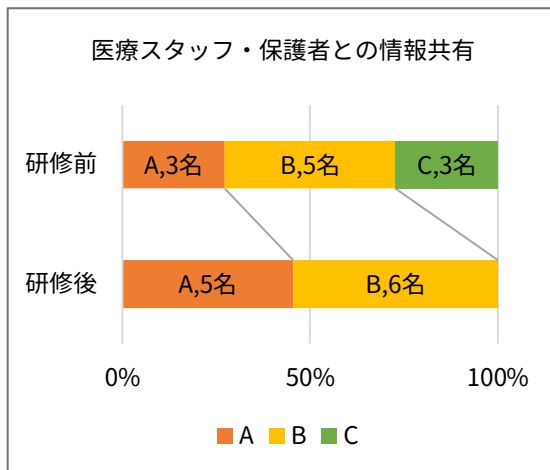
¹ 山下祥代・榎木暢子・太田貴仁・荻田知則・中野広輔, 入院児への余暇・学習支援における学生ボランティアへの期待に関する研究, 2016,8.30, Journal of Inclusive Education VOL.1, 54-66.

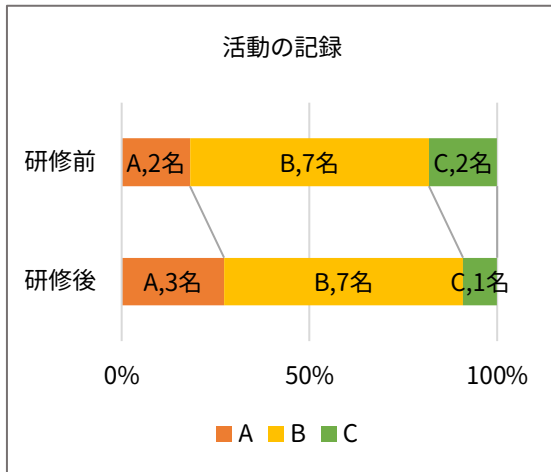
受講生別 細項目における変化

<知識・理解>

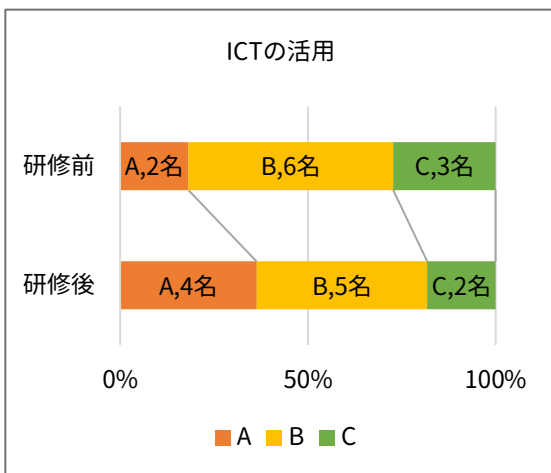
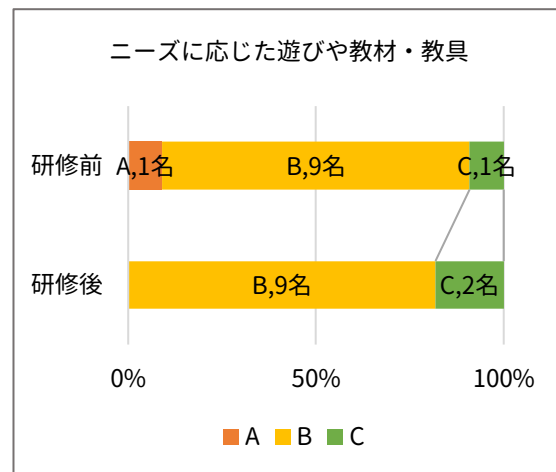
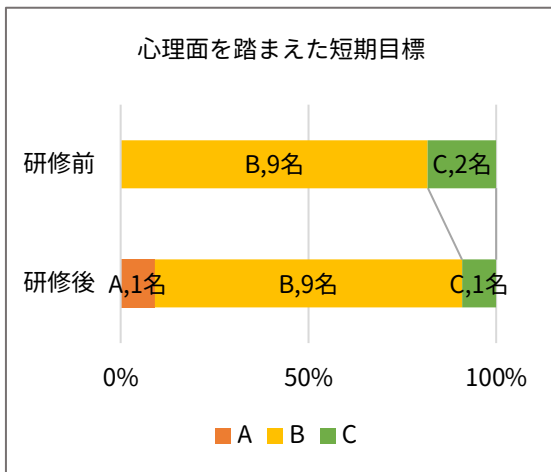


<思考・判断・表現>





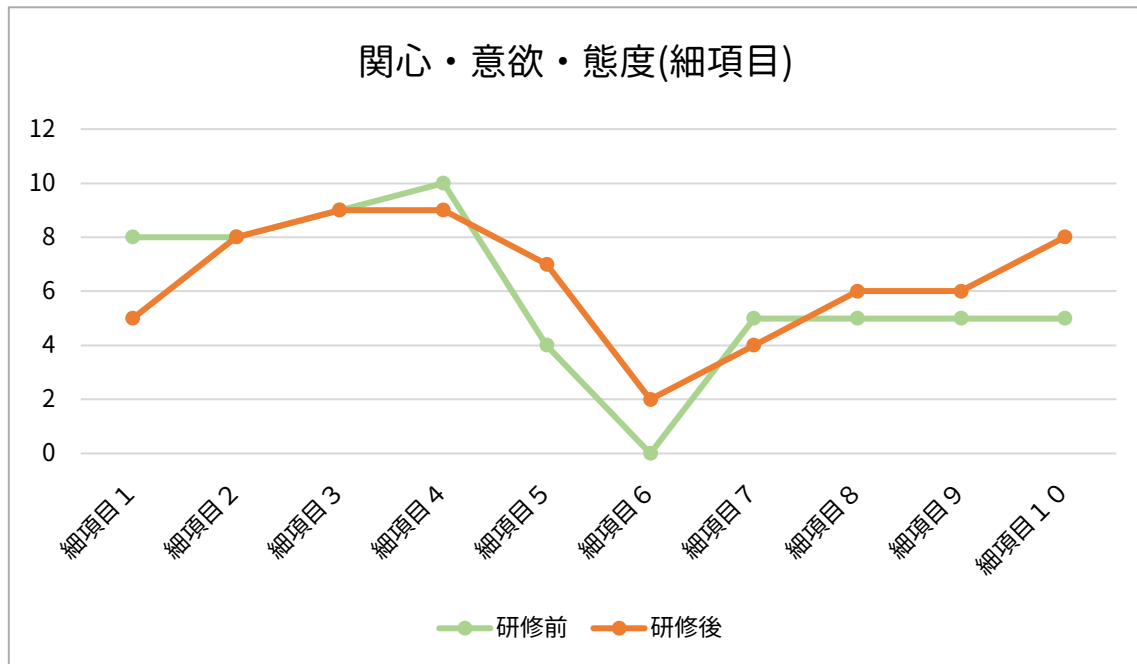
<技能>



＜関心・意欲・態度＞

表 1 関心・意欲・態度の細項目一覧

細項目 1	言葉や行動の意味を人に聞いて理解
細項目 2	ことばや行動の意味を調べて理解
細項目 3	知識を活動内容と関連付ける
細項目 4	知識を基に関わり方を考えて活動
細項目 5	教育関係者から指導助言を受ける機会に参加
細項目 6	教育関係者に指導助言を依頼
細項目 7	自分なりにまとめて記録
細項目 8	改善点や次回の展開を考えようとする
細項目 9	周囲の人から考え方を取り入れる
細項目 10	ボランティア参加者の考え方を取り入れる



全体的に数値に上昇が見られ、研修会を通して、受講生の関心・意欲・態度が向上したといえます。中でも、指導助言を受ける機会に参加すること、改善点や次回の展開を考えようとする、周囲の人・ボランティア参加者の考え方を取り入れることは伸び率が大きく、より良い方法を学ぼうとする態度が養われたことがわかります。

受講生より：研修会を通しての感想や、もっと知りたかったこと

- 子どもとの交流方法がわかりませんでした。新たに知ることができて良かったです。
- さまざまな視点から病気療養児に必要な支援を学ぶことができて良かったです。
- 病気の子どもの気持ちの変化や学習支援の意義など、多くのことを学ぶことができた。この経験は今後の様々な活動に結びつけていくことができると思う。今後、学習支援をする際は、今まで学習した内容を振り返りながら、自分らしい学習支援ができたらと思う。
- 現場に立つ方からの話を聞くことができたので、今後の参考になった。
- 副島先生の講演を視聴できたことはとても貴重な機会であり、とても深い学びとなった。
- 学習支援の楽しさや難しさ、課題を学ぶことができ、とてもよかった。これからもっとたくさんの子どもと関わり、学習支援を行いたい。
- 研修会、実際のボランティアを通し、病気のある子やその保護者さんがどう過ごされているのかについて知ることができました。また、何を必要としているか、どんな支援をすべきなのかについて考えることができる良い機会となりました。
- 今後医療職を目指すので、経験が大変勉強になりました。



第3章 学習支援ボランティアの実施

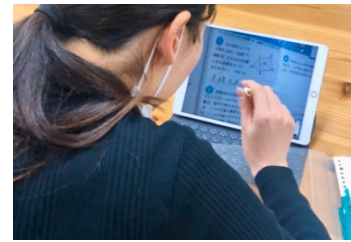
3-1 ボランティアによる学習支援の実施について

- 第3回までの研修が修了し、スタッフとの個人面談ができた受講生は、学習支援ボランティアに参加しました。

事業期間 2021年9月～2022年8月までの学習支援ボランティア実施状況

小学生が対象の学習支援

- 合計6名。週1～3回オンラインでの学習支援を実施しました。
- 小学校1年生から6年生まで、学年によって学習内容もお子さんの様子もガラッと変わります。ボランティアさんと一緒に「どうしたら楽しみつつ学習できるかな」「その子に合った学習ができるかな」と考えながら学習支援を進めました。



▲ オンライン学習支援の様子


中学生が対象の学習支援

- 合計5名。週1～3回対面での学習支援が4名、週1回オンラインでの学習支援が1名でした。
- 中学生になると、学習内容も複雑になってきます。お子さんたちの自主学習をベースにしつつ、わかりにくいところや気になるところを一緒に考える形の学習支援が多く見られました。

高校生が対象の学習支援

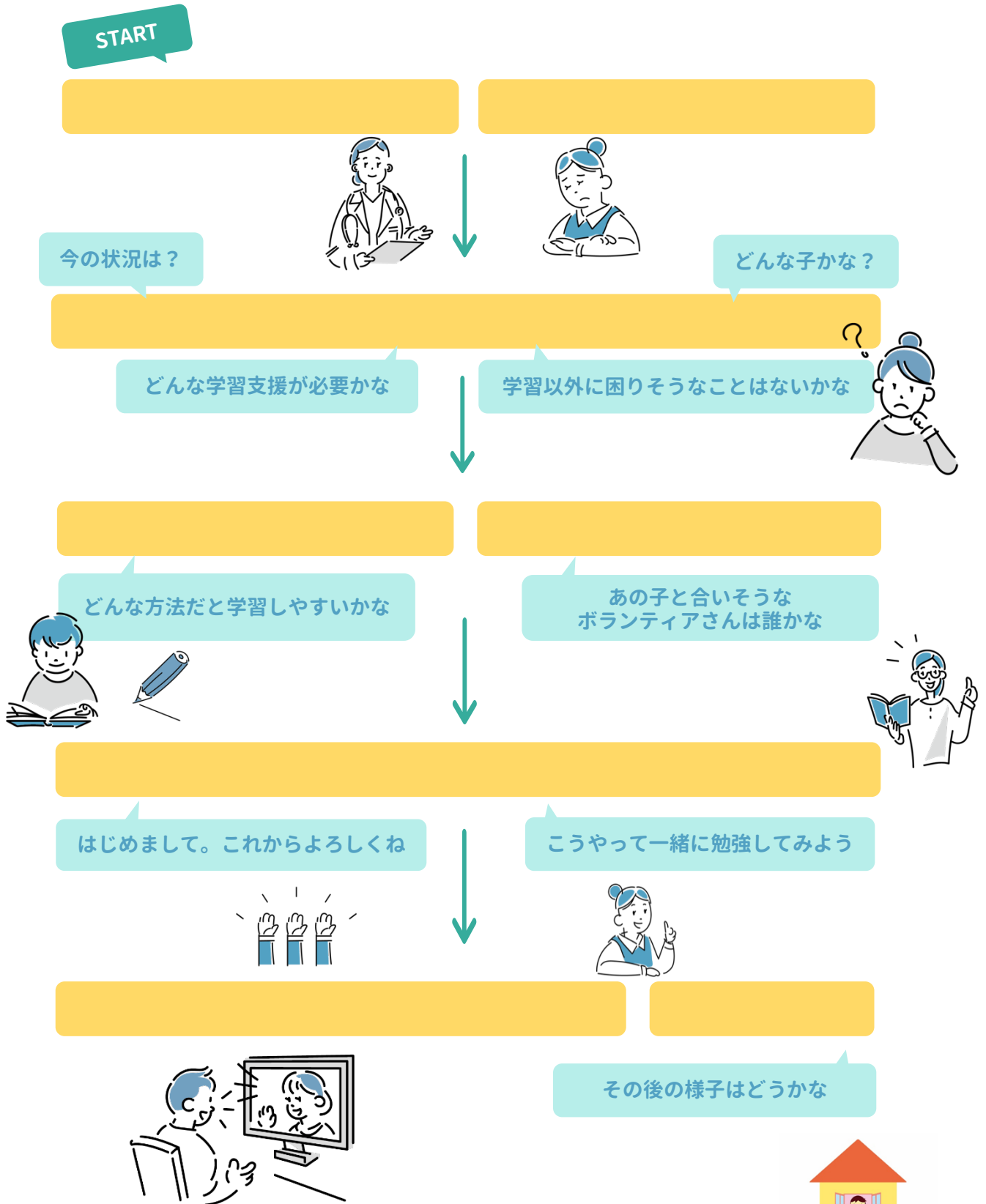
- 合計4名。週1～3回オンラインでの学習支援が3名、週4回対面での学習支援が1名でした。
 - 高校生は、提出物やテストの成績がダイレクトに授業の単位、そして進級・卒業につながります。課題のわからないところに一緒に取り組んだり、テストの復習をしたりする学習支援が多く見られました。
- 学習支援後は、報告書を提出していただき、ラ・ファミリエや保護者等との情報共有をしました。

学習支援報告書

活動日時	2022年
活動参加者	小学生 ボランティア1名
場所	オンライン:Zoom
活動概要	・ カードゲーム、算数プリント
内容	<ul style="list-style-type: none"> 最初は、ここ最近の様子を聞きました。「2回熱が出た」「皮下注射になった。痛い」「今日は保育士さんと離れのぼりゲームと的当てをした」「24日(日)が誕生日。カステラのケーキをお父さんに頼んでいる」とお話ししてくれました。 毎度数を増やしている「ナンジャモンジャ」をしました。2週間の間に見えていたもの、忘れていたものも増えて。今日も1つキャラを増やしました。 「ワードスナイパーがしたい」とのこと。19:30までワードスナイパーをしました。20テーマほど答えることができて、「それにあるもので、"で"から始まるもの」で「てんびん座」と答えてくれたのは、とっても素敵でした。 後半30分は、4年生の時の担任の先生がくれたという、小4のおさらいの算数プリントをしました。 割り算の計算、四捨五入、大きい数(兆・億)を解いていきました。 一緒に解いていきましたが、本人でつづり解いていたように思います。 プリント全部は終わらなかったのですが、「自分で解いてみて、わからないところがあったら次しようね」と伝えています。 
その他	次回 <ul style="list-style-type: none"> 誕生日の翌日おめでとうを伝えたいです。
	<ul style="list-style-type: none"> 本日使用した教材 本人所持の算数 の宿題プリント

▲ 学習支援報告書の例
※氏名等は伏せて掲載します。

- ラ・ファミリエにおける学習支援ボランティア開始までの流れを図で示しています。



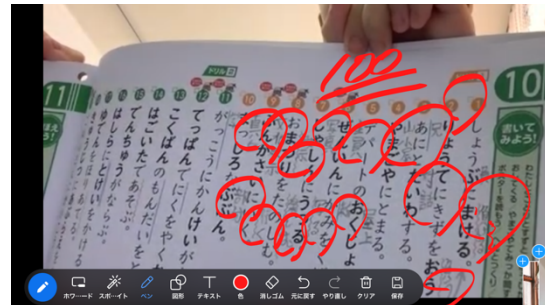
実施した学習支援ボランティアについて、一部紹介します。

恐竜とゲームが好きな小学校中学年の A くん

- 病気の治療のため、数年の入院をしていました。
- 長期入院が終わり、数週間入院⇄数週間退院を繰り返すことになりました。
- 長期入院中は院内学級に学籍があり、授業を受けることができていましたが、長期入院の終了を機に、地域の学校に籍を戻すことにしたので、入院しても院内学級の授業を受けることができません。また、本人の体調の様子や新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、退院中も学校に通学できないかもしれません。
- 本人「恐竜のゲームが好き」「勉強は、しなさいって言われたらするよ」「もし勉強するなら、漢字がいいかな」「理科や社会はあんまり興味がないかも」
- 保護者「授業が受けられなくて、ゲームをして過ごしていることが多いので、勉強も少し取り組めたらなと思っています」

- まずは好きな教科から勉強の習慣をつけていこう。
- 入院中も退院中も、継続して学習のフォローができるように、オンラインでの学習支援を始めてみよう。

- ラ・ファミリエ自立支援員と学習支援ボランティア 2 名によるオンラインでの学習支援を開始しました。
- 学校から配布されている宿題やワークをベースに、週 2 回程度の学習支援を実施しています。理科の実験・観察や社会の地域についての学習の時は、教科書だけではなく動画配信サイトで動画を見ながら、具体的にイメージしながら学習できるように留意しています。
- 遊び心を忘れずに。一緒に恐竜のゲームで遊んだり、ハロウィンには A ちゃんとボランティアが仮装をして登場したり、クリスマスにはサンタさんに扮したり…



学習支援の時間が、少しでも「いいじゃん」って思ってもらえるような、ふっと肩の力が抜けるような瞬間になるように…



漫画が大好き！中学生の B ちゃん

- 病気の治療ため入院して治療をしています。入院中は院内学級に通っています。
- また、治療のため、約 2 ヶ月、県外の病院に入院をすることになりました。
- 本人「漫画が大好き」「勉強は嫌い！でも、勉強が遅れているのは不安かも」「もし誰かと勉強するなら、苦手な教科を一緒に考えてほしいな」
- 保護者「学習の不安もあるが、本人の話し相手ができたらと思っています」「県外での入院もあり、知らない土地で、知らない人ばかりになってしまうので」

🌈 趣味の合うボランティアさんと一緒に、勉強したりお話ししたりできるような学習支援をしていこう。

- ラ・ファミリエ自立支援員とボランティア 2 名による、オンラインでの学習支援を開始しました。
- 学校から配布されているワークをベースに、週 2 回程度の学習支援を実施しました。
- ボランティアは、本人と同じく漫画が好きな女性のボランティアさんに担当いただいています。本人が苦手な数学と英語を一緒に勉強しながら、本人の好きな漫画やアニメの話で盛り上がることもあります。

県外にいても変わらず一緒に勉強したり好きなことについて話したりできる相手がいることは、本人の何かの支えになるかもしれません。



実は好きなことがいろいろある！高校生のCくん

- 病気の治療の入院治療を経て、退院しましたが、学校に行きづらくなっており、1年弱ほど高校の授業を受けることができていませんでした。
- 本人「大学に進学したいとは思っているが、勉強へなかなか気分がのらない」
- 保護者「精神的に不安定になってしまい、学校に行けなくなってしまっています。家にも沈んだり、暴れたり」「無気力な様子です」

🌈 学習のフォローだけではなく、家の外に出る、人と話す、やってみたいことをやってみる機会として、学習支援をやってみよう。

- ラ・ファミリエ自立支援員による、ラ・ファミリエ事務所（地域子どものくらし保健室）での、対面の学習支援を開始しました。
- 学校から配布されているワークをベースに、週4回程度の学習支援を実施しました。
- 雑談の中で「農業系にも少し興味があるんだ」という話をしてくれたので「やってみよう！」と、ラ・ファミリエ事務所で一緒に野菜を栽培しました。
- 「おもちゃや動物が好き」「新しい場所に行ってみたい」「人の力になるようなことがしたい」など、好きなことややってみたいことを色々話すことができました。
- 学習支援を半年ほど継続したあと、少しずつ学校に登校し始め、現在は毎日学校に通学しています。



家の外に出て、人と会って、話す時間を積み重ねていったことが何かにつながったかもしれないな、と思います。



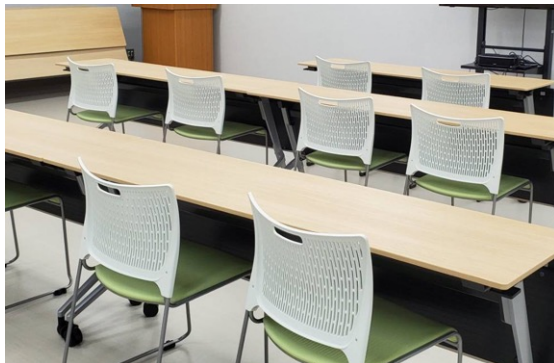
第4章 小児科外来での学習支援について

小児科外来での自習室開放と学習支援について

- 初めての取り組みとして、2021年12月に愛媛大学医学部附属病院の小児科外来にて「外来自習室での学習支援」を実施しました。小児科外来では、受診に来られているお子さんやご家族さんがかなりの時間を外来で待っているのが現状です。
- そこで、受診を待っている間に使えるような、自習室が開放できないか、ということで、自習室の開放をしました。この日は、ボランティアにもご協力いただき、自習室でわからないところをお子さんと一緒に考えたりできるような体制をとっていました。
- お子さんからは「もっとこの部屋にいたかった」や「持ってきていた宿題ができてよかった」という声もありました。
- これには、病院さんやボランティアさんとの連携ができているからこそ、実施できたことだと、とてもありがたく思っています。



▲ 自習室での様子



▲ 自習室の写真

小児科外来に受診に来られているお子さんへ

今日は

じしゅうしつ
自習室があいています！

- 診察の待ち時間に、宿題や勉強ができます。
- 勉強を教えてくれたり、お話をしたりするスタッフがいます。
- 診察の時間が近づいたら、部屋にある電話で知らせてくれるので安心です。

つかひと
使いたい人は
がいらい うけつけ
外来の受付に
つた
伝えてください。

◆お問い合わせ
認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室
〒790-0813 愛媛県松山市豊町4丁目7-2 カネ宮ビル1階
TEL/FAX : 089-916-6035 Mail : lafamille@cc-sodan.jp

認定NPO法人ラ・ファミリエ
愛媛県松山市豊町4丁目7-2 カネ宮ビル1階

▲ 当日使用したチラシ

編集後記

コロナ禍に突入して丸2年が過ぎました。入院中のお子さんたちに直接会えるのは退院してから……一番しんどい治療中に直接会って話ができないくやしさを、寄り添えないくやしさを、関わる側も関わらせていただくお子さんも、どちらももどかしい気持ちが続いています。

ただ、退院してから、自宅にいてもICTを使って支援ができるという意味では実りのある1年になりました。ボランティア育成という点でも、オンラインというツールを使って気軽に本事業の研修を受けてもらい、お子さんたちにも関わっていただきました。

「ひとりじゃないよ」「ラ・ファミリエに相談すればなんとかなるかも」この事業を通じて、それを伝える一助となりましたことを感謝しております。

認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 理事、地域子どものくらし保健室 ディレクター
西 朋子

オンラインでの学習支援をしていたことで、コロナ禍での面会制限だけではなく、無菌室に入った時、県外に転院になったとき、入退院を短期間で繰り返すときなども、変わらずビデオを繋いで子どもたちと会うことができました。環境が変わるときは、子どもたちもドキドキですし、はりつめている印象があります。そんな時に、変わらずお話ができるような私たちスタッフやボランティアさんの存在が、何か少しでも子どもたちの緊張をほぐせたらと思いながら、日々子どもたちとの時間を大切に活動をしていきたいと考えています。

認定 NPO 法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室 自立支援員
越智彩帆





2021年度ドコモ市民活動団体助成事業
「コロナ禍に対応した病気の子どもへの学習・余暇支援実施可能な支援者育成事業」
報告書

発行日 2022年8月31日

発行者 認定NPO法人ラ・ファミリエ

企画・制作 認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室

問い合わせ先

認定NPO法人ラ・ファミリエ 地域子どものくらし保健室

〒790-0813 愛媛県松山市萱町4丁目7-2 カネ宮ビル1階

TEL/FAX : 089-916-6035 E-mail : lafamille@cc-sodan.jp

この報告書は、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドの助成事業にて作成いたしました。
多大なご理解、ご協力をありがとうございます。
引き続き、今後もご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

